

令和4年度笠岡市まちづくり活動報告会の結果報告

1 日 時 令和5年1月28日(土) 13:30～15:30

2 場 所 笠岡市民会館ホール・ホワイエ

3 主 催 笠岡市(協働のまちづくり課)

4 目 的 笠岡市では、住民主体のまちづくりを推進するため、地域活動を行う町内会や公民館など、様々なネットワークでつながる住民自治組織「まちづくり協議会」の運営や活動に支援を行っている。

報告会を通じて、「まちづくり協議会」とは何か、その取り組みをわかりやすく紹介し、市民に広く知ってもらい、地域のまちづくり活動について考える機会となるよう開催する。

5 出席者

<笠岡市> 小林市長, 松浦副市長

<来賓>	笠岡市議会	議長	妹尾博之	氏
	同上	副議長	藏本隆文	氏
	同上	総務文教委員長	大本邦光	氏
	同上	総務文教副委員長	栗尾典子	氏

<発表者>

①笠岡地区まちづくり協議会・神島まちづくり協議会

新山地区自治会・大島まちづくり協議会

「コロナ対策活動事例リレー発表」

発表者	笠岡地区まちづくり協議会	会長	梶平一平	氏
	神島まちづくり協議会	会長	長鋪幸志	氏
	新山地区自治会	会長	山部明道	氏
	大島まちづくり協議会	会長	浅野ツヤ子	氏

②飛島自治振興会

『「若者を育む島」～飛島とよそ者の4年間～』

発表者 飛島自治振興会 日置幸氏，堂野博之氏
＜コメンテーター＞
ノートルダム清心女子大学 現代社会学科教授 二階堂裕子 氏
笠岡市市民活動支援センターアドバイザー 小野賢也 氏

6 来場者

149名（報道発表：約150名）

まちづくり協議会：22地区78名

地域おこし協力隊：2名

市議会議員：6名

その他一般参加：19名

（参加者の主な所属団体名：倉敷市，総社市，福山市，栗谷川虹頭彰会，
岩原山冒険遊び場，きょうから，報道機関ほか）

市職員：44名（地域担当職員：33名，その他職員：11名）

7 事例発表の概要

（1）笠岡地区まちづくり協議会・神島まちづくり協議会

新山地区自治会・大島まちづくり協議会

「コロナ対策活動事例リレー発表」

＜笠岡地区まちづくり協議会＞

- ・笠岡地区まちづくり協議会会長の榊平氏が登壇。
- ・笠岡地区では子育て部会による「子どもふれあい祭り」を平成26年から開催し，多いときは120人ほどが参加して割り箸を使ったゴム鉄砲，折り紙，お手玉など昔遊びを楽しんでいた。
- ・会場は，当初は貫閲講堂だったが，使用できなくなっからは井戸会館で開催していた。しかし，井戸会館では密になりすぎるので，今回は笠岡小学校の体育館を借り，広い会場で開催した。また，開催時期を例年より一ヶ月早めることで，換気や体育館が広いことによる「寒さ」も緩和することができた。
- ・家族単位で参加してもらうようにし，親子が1つのテーブルで作業するようにした。遊びの内容は密を避けれるよう「プラ板作り」と「羽子板作り」の2つのみにした。また，工作に使用するはさみやサインペンなどの文具類はトレーに入れて各テーブルに置いておいたり，工作セットはビニール袋に入れて渡すなど，不要な接触を減らした。

- ・以前の様に中学生ボランティアが望めないことが今後の課題である。

<神島まちづくり協議会>

- ・神島まちづくり協議会会長の長鋪氏が登壇。
- ・神島地区では就学前の幼児，特に幼稚園等に通園していない幼児とその父母を対象に，ふれあい遊びを通じて交流や情報交換をすることを目的とした「親子ふれあいサロン」を開催している。このサロンは，愛育委員や栄養委員，公民館，社会福祉協議会神島内支部，民生主任児童委員など多くの地域の団体と連携して行っている。
- ・今回は会場を屋外にし，家族単位で参加してもらった。また，複数の遊び方を用意し，広い会場をいっぱいに使って遊べるようにした。遊んでいるとき，小学校の子が下の年齢の子の面倒をととてもよく見てくれて，縦の繋がりを感じられた。
- ・クリスマス会を実施する際は，開始時間は決めたが集合時間は決めずいつでも来てもらえるようにすることで，密を避けることができた。また，プレゼントだけもらっても良いし，子ども同士で遊んでも良いなど，参加者の都合に合わせた参加の仕方ができるようにした。
- ・今後は計画の段階で前倒しや延期などを検討するなど，感染状況に応じた対応をしたい。

<新山地区自治会>

- ・新山地区自治会会長の山部氏が登壇。
- ・新山地区自治会では，偏食になりがちな高齢者の昼食を，地域のみinnで楽しくバランス良く食べることを目的に「新山食堂」を実施。利用者は毎月平均 100 名強。
- ・当初は土倉記念館の和室で会食をしていたが，コロナ禍になり中止した。しかし，地域からの再開要望の声から，テイクアウト弁当として再開した。準備の際は手指の洗浄消毒の徹底，マスクやビニール手袋の着用，密を避けるなど細心の注意を払っている。
- ・接触を最小限に抑えるため，完全予約制にし，弁当は予約の数だけ袋に入れて入口で渡している。外出が難しい方には近所の方が配達してあげたりなど，助け合いの輪が広がっている。また，予約制にしたことで，食品ロスもなくなった。

<大島まちづくり協議会>

- ・大島まちづくり協議会会長の浅野氏が登壇。
- ・大島地区において，地域の文化財から先人達の残した歴史を見つめ直し，子どもたちの郷土愛を育てることを目的に，令和3年度より3年計画で「大島再発見」事業を行っている。令和3年度は現地調査と史実伝承調査を行い，令和4年度はその調査結果を知ってもらうために写真展を開催した。
- ・会場は大島小学校の多目的ホール，大島中学校の図書室など3か所，海の校舎（旧大島

東小学校)の講堂を使用。3会場で異なる期間で分散開催したことで、来場者の密を避けることができた。また、開催日は小中学校の懇談日や登校日に合わせることで、子どもだけではなく保護者にも見てもらうことができた。

- ・写真展は成功したが、会場を分けたことで展示物を移動させる作業に苦労した。

(2) 飛島自治振興会

『「若者を育む島」～飛島とよそ者の4年間～』

- ・高齢化率95%である飛島で、「困った時にはすぐに助けてあげられる存在」になりたいという想いで活動を始めた「よそ者」が、4年経った今、住民のみなさんに「困ったらいつでも言うてこい!」と言われる存在になった。そこまでに至る3つのポイント(ガーディアン, はぐくみ, 地域計画)について, フリースクール育海の代表で飛島自治振興会の堂野博之氏, 飛島ガーディアングループの代表の日置幸氏が登壇し発表。
- ・(ガーディアン) 10代~20代のボランティアチームとして, 2018年に「飛島ガーディアングループ」を結成。月に1度は必ず飛島に通い, 住民の生活を支援しようと活動をスタートした。住民の皆さんが大切にしていることを知るため, 伝統文化伝承教室の実施や, 嶋祭りに参加する中で, ボランティアチームとは言っても, 住民の方に支えられていることに気付いた。
- ・(はぐくみ) 2020年にフリースクール育海を開校。様々な理由で学校に通えなくなった生徒を受け入れ, 規則正しい生活や学習習慣, 自分で生きる力を身につけることを目的とした「離島留学」を行っている。現在は5名の中学生が在籍しており, 学生が住民の手伝いをしたり, 行事と一緒に参加するなど日々の生活で交流することで, お互いに前向きな気持ちを育んでいる。
- ・(地域計画) 令和3年3月に, 地域住民が主体となって課題解決方法や将来像をまとめた「地域計画(まちづくり計画)」を策定。策定にあたっては, 住民が集まって生活の中の困っていることなど意見を出し, テーマ別に整理。令和3年度は「空き家」の取組で都市計画課と連携して, 住民と一緒に島内を歩きながら空き家を調査し, 空き家マップを作成した。令和4年度は「防災」の取組で危機管理課と連携して, 防災教室や避難訓練を行った。